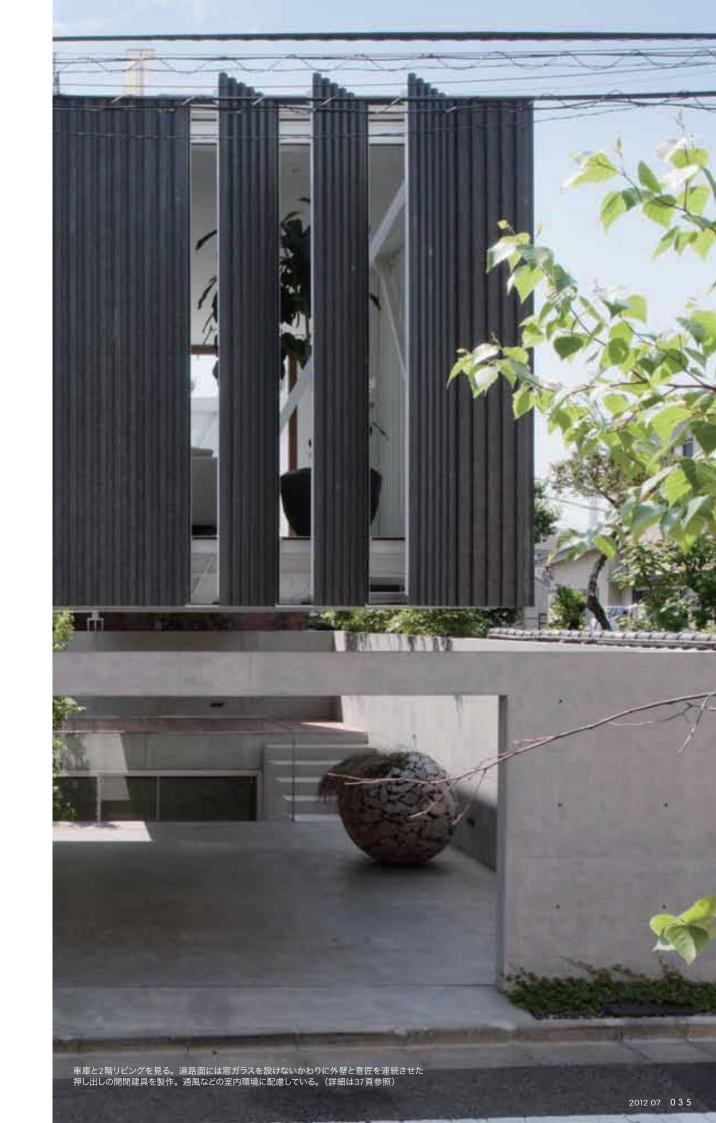


東側外観。中の気配が外に伝わらないような家をという建主の希望から、外に対して閉じている。RFLは5,430mmと低く抑えられたプロポーション。屋根上部に3本のH鋼大梁が乗る。

0 3 2 2012 07 2012 07 2012 07





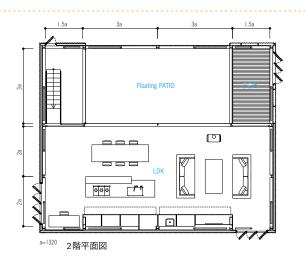
敷地は都市部には珍しく低層の家がゆったりと建 ち並ぶ住宅地にある。建主は外からは覗けない が内部に開放的な空間が展開する、シンプルな かたちの住宅を望んでいた。しかし隣家との距離 は近く、ここで高いプライバシーを確保するには 特別な工夫が必要だった。この要望がこの家の すべてのデザインをつくり出したといってもよい。 まず主空間であるLDKは光を取り込みやすいよ う最上階に配置し、この空間が外から覗かれな いように中庭=Floating Patioと一緒に壁で囲 い、1階の和室の構造体の上に浮かぶように置 いた。地下にも2階の中庭と連続するよう、もう ひとつの細長い中庭=Sunken Patioをつくり、 地下にありながらも十分に光の入る寝室と浴室 など私的な空間を配置した。

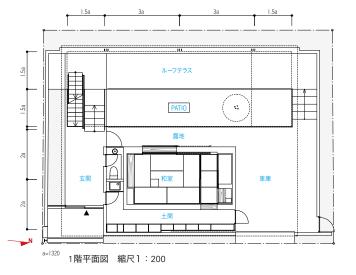
これら上下のふたつの私的な空間に挟まれた1 階は、上下の階よりも外界とのつながりの強い 空間として扱い、ここに置かれた和室はお茶会も できるようデザインされている。宙に浮いた2階 の架構は1階の空間にとっては大きな屋根となり、 和室を囲む構造体の回りには開放性に富む流動 的な空間が生まれた。この空間は茶庭に例える と露地であり、和室は露地に置かれた茶室になる。 この3層にわたる中庭は、これに接してある地下 の躯体を少し上にずらすことで、地下のSunken Patioを1階の露地とつなげ、さらに1階の露地を 上のFloating Patioと連続させることで一体とな り、流動性の高い空間を内包する中庭=Patioへ と変貌した。

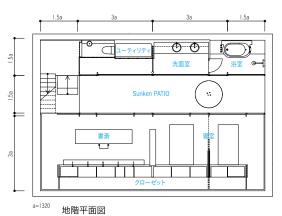
その結果Floating Patioからの光は、1階の露 地空間を満たしてSunken Patioまで導かれる。 外の寡黙な表情の外観から一変して、一歩足を 踏み入れると、内部には光に満ちた別世界が展 開することとなった。

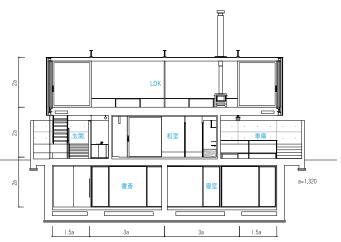
この建物の中にいると、目に入る外界は、雲の 流れる空だけとなり、外は林の下に木陰が続く ようにも思えてくる。外から見えない家というテー マは、内部の充実という別の価値を得ることに なった。 (矢板久明+矢板直子)



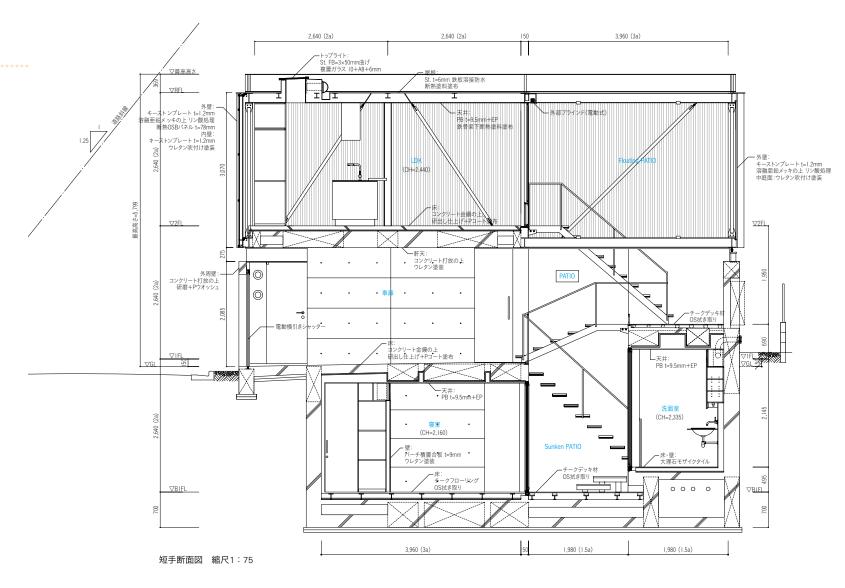














Sunken PATIO。上部に視線が抜けた先には空のみが見える。

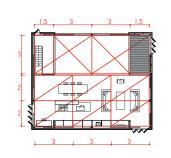
0 3 6 2012 07 2012 07 0 3 7

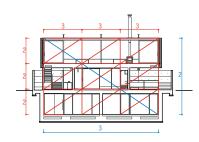


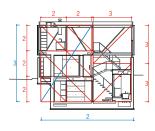


今さら何を、あえて言おう 理想・調和・プロポーション

矢板久明







左から「PATIO」平面図、長手断面図、短手断面図。赤ラインと文字は比率を示す。

正対して見ると古典、斜めから見ると近代

古代ギリシャから伏流水のように流れ続けている もの、それは真理を求め続ける心である。宇宙 の構造が解き明かされ、最小単位の世界まで 手の内にしたかに思える今、真理などということ を建築界で聞くことはほとんどない。視覚情報 が溢れ、消費され、本物と見まごうばかりの仮 想空間がコンピュータ上に構築されていく中、こ れまで受け継がれてきた真理に近付かんとし、 見えざる価値を尊ぶ心はほとんどなくなってきて いるように思われる。

そんな中「PATIO」は、再び古典的世界に思い を馳せることとなり、そこに流れる思想の意味を 改めて再認識する機会となった。それは建築家 の米田明氏が「PATIO」に立ち寄ってくれた時の こと。彼は「正対して見れば古典、斜めから見 れば近代の空間がある」という、大変興味深い 感想を述べた。一見スタティックなフレームの中 に、流動性の高い空間をつくったル・コルビュ ジエの建築がこれにあたるそうだ。意味深長な 言葉である。私もこれまで考えてきたことが、 「PATIO」でひとつの成果として立ち現れてきて おり、目指す空間の一端が生まれていることを 感じていた。彼の言葉はそんな私の頭の中をか けめぐり、いろいろな思考の過程を振り返るきっ かけとなったのである。

理想、あこがれ、麗しきもの

学生の頃、コーリン・ロウの著作やロウの師で あるR・ウィットコーワーの著作などを心踊らせ ながら読んだ。過去の偉大な建築家たちがどの ように建築を考えていたのか。そして、何を心の 拠り所としていたのかを垣間見たような気がした ものである。

コーリン・ロウは『理想的ヴィラの数学』[1]で、 連綿と続く西欧思想としての数的宇宙観を提示 した。その著書でパラディオの「ヴィラ・マルコン テンタ」とル・コルビュジエの「ヴィラ・ガルシェ」

が双方とも類似した比例関係を用いていることを 指摘し、近代建築の旗手であるル・コルビュジ エが、確実に西欧の哲学的伝統を引き継いだ 精神的な古典主義者であったことを示した意義 は大変大きかった。

もともとこの論は、R・ウィットコーワーが『ヒュー マニズム建築の源流』「2」で、ルネサンスが音楽 比と空間比を同一視する思想を根底にもつと指 摘したことに端を発する。この『ヒューマニズム 建築の源流』で、脈々と続く西欧の数的神秘主 義の流れが明らかにされた。ルネサンスの思想 は協和音なるものが単純な整数比によって決定 されることを発見したピタゴラスの思想を源流と し、その後、プラトンの「現世は善なるイデアの 投影である」とする二元論的世界観のイデア論 へと引き継がれ、ローマ時代に入り「現世もイデ アも一者から〈流出〉した善き存在である」とする 一元論的なプロティノス [3] による新プラトン主義 に変貌し、後に、この思想が15世紀にフィッチー ノたちに受け継がれ、ルネサンスとして大きく花 開いた。この『ヒューマニズム建築の源流』は、 その後コーリン・ロウを通じてルイス・カーンに も直接手渡されたという[4]。

古典とは、数的宇宙観に源流をもつ思想

『建築へ』 [5] の中でル・コルビュジエは 「建築は 優れた芸術であり、比例の取れた関係によって プラトン的偉大さ、数的秩序、調和の思考と知 覚という状態に達する」と述べた。

ピタゴラスの「万物は数なり」と捉える数的宇宙 観に端を発し、プラトンが『ティマイオス』 [6] で 述べた「宇宙は幾何学的充実体である」とする 哲学は、「宇宙はデミウルゴスの意思により現れ、 意図せざるものはない」という確信に基づくもの であった。その思想を受け、ル・コルビュジエは 「精神的なるものは美しく、美しいものは幾何学 的精神の直接の反映であることを固く信じて建 築をとらえる」 [7] という一貫した態度であった。

彼にとって数的宇宙というイデアの世界は、もは や単なる知識ではなく、ありありとそこにあるもの として捉えていたはずである。筋金入りの神秘 主義者であったといってよい。

建築は目を閉じて理解するもの

数的秩序を論じること、そこにあるのは精神である。 現象世界で勝負する建築でも、それは変わらな いはずだ。それはコーリン・ロウが「透明性」[1] の中で、美学者G·ケペッシュの言葉を引用し「透 明性とは、空間的に別のところにあるものを同時 に認識すること」と述べている。この透明性も、 昨今、目に見える世界だけで論じられることが多 く、もはや精神性の欠如としかいえない状況で ある。ここで論じている数的比例を通しての建築 の認識は正にこの透明性の獲得なのである。 それでは、建築における数的宇宙の歴史を少し 紐解いてみる。

パルテノン神殿 [図1・2] は6つの2:3の矩形か らなり、正面は基壇下部からコーニスの高さの 2倍の幅となっている。有名な黄金比は破風の 頂部で成立している。ル・コルビュジエのロンシャ ンの教会 [図3] は自由奔放に見える形態にもか かわらず、単純な幾何学が基礎となっている。ル・ コルビュジエ財団にある図面の平面にはふたつ 正方形が描かれ、高さも平面の正方形の一辺 の1/2を一辺とするふたつの正方形が示されて おり、空間のヴォリュームとして8つのキューブ が置かれていることが分かる。ルイス・カーンの 場合、私の研究によれば[8]ここに挙げるイエー ル大学アートギャラリー [図4・5] 以降、ほぼす べての彼の建物に黄金比の近似である5:3と 正方形が採用されており、サーバントスペースと サーブドスペースも、これらの矩形や正方形が 重なり合った部分に現れてくる。ここで挙げた3 例とも、ヴォリュームとして比例が用いられてお り、比例的関係を通じて建物を3次元の概念と してとらえていることが重要であると考える。





左:2階Floating PATIOからリビング方向を見る。中心の梁からシンメトリーに空間が展開する。

右:2階階段室から見る。中庭と居室の階層を超えた連続性を生み出す。

浮かび上がる数的秩序—PATIOの場合

「ルネサンスの建築家は、常に左右対称を理論 上の必要条件と見なしていた」[1] とコーリン・ロ ウは述べている。球を究極的な幾何学立体とす るプラトン的宇宙観では、対称形を理想とするこ とは、より完全なかたちを希求する意識からも自 然なことであったと思われる。

偉大な建物を言及した後で僭越であるが 「PATIO」についても述べてみよう。建物長手方 向での構造フレームは左右対称となっている。こ れは1階の開放性を高くするため、和室を囲む構 造のみを置き、地下の寝室と書斎の間の柱を建 物長手中央に置くという提案を、構造家の杉浦 克治氏から受けたことに端を発する。やじろべえ のように構造的バランスを取る、という重力を意 識したごく自然な態度が、この建物に軸線を与え、 シンメトリーが生まれた。建築がかくありたしと語 り出したのである。これは自然の摂理を受け止め た結果であり、宇宙の理と呼応したように感じた。 断面では各階とも同じ高さが与えられ、長手方 向では9つの2:3の矩形で整えることが相応し く思われた。平面でも2:3の矩形が現れ、2階 のリビングは6つの2:3の矩形で、その短手断 面は2倍正方形である。このリビングの数的ヴォ リュームはパルテノン神殿と同じものになってい た。なんとも不思議である。

「規制線の選択は霊感の決定的瞬間」とル・コル ビュジエは述べている。私も設計が大詰めを迎え、 全体の数的秩序が現れる時、不思議な感覚を覚 える。そしていつも思う、「あっ、そうだったのか」と。

数的秩序を与えることは、自由さの獲得

プロポーションを与えること自体が、縛られるよ うな印象を受ける人も多いかもしれない。しかし それは全く逆であり、自由さを獲得し、空間が ふくらみを得るときであり、建築が意志を獲得し たと思う瞬間である。比例で調整するのはあくま で秩序を発見することで、最初は意識をしない。

建主の要望に耳を傾け、さまざまな条件に対し て最善と思える答えを出していった後、最後に すがすがしい秩序との出会いが待っている。そ れまで頭を悩ましていた問題は美学へと昇華し、 跡形もなく消え去っていく。後に残るのは目を閉 じても心に残る秩序であり、それはいつまでも変 わらない普遍的なるものである。

未来に向けて今思うこと

調和を目指すベクトルと、進歩、発展を目指す ベクトルはクロスする。両立させることは難しい。 視覚情報の氾濫する現在ではより新しいこと、 革新的なことを求めるのは自然なことかもしれな い。しかし、我々に深い感動を与え続けてきた 建築を思い起こす時、それらをつくった人びとの 精神と彼らの信じた世界へ、もう一度目を向け る時ではないだろうか。

イデアに近付き、真理へと向かう扉のひとつが数 的宇宙観であった。特にル・コルビュジエの一途 さは特筆に値するものであり、また作品すべてに 黄金比を使い続けたカーンの強靱な精神は驚異 ですらある。彼らは調和と発展というふたつのベク トルを止揚したのだ。それを実現させたのは、人 類の真なる幸福を願う心であり、真摯にイデアを 見つめ続ける謙虚さであったように思う。未来に 向けて求められるのは、まさにこの姿勢に違いない。

参考・引用文献

[1] コーリン・ロウ著 伊東豊雄・松永安光訳『マニエリスム と近代建築』1947年・1981年 彰国社

[2] R・ウィットコーワー著 中森義宗訳『ヒューマニズム建築 の源流』1949年・1971年 彰国社

[3] プロティノス著『エネアデス』(プロティノス全集) A.D.3 世紀・1987年 中央公論社

[4] D·G·デ・ロング著 東京大学香山研究室監訳 「第2章 リアライゼーションへと開かれる心」 『ルイス・カーン 建築 の世界』1992年 デルファイ研究所

[5] ル・コルビュジエ著 樋口清訳『建築へ』1923年・2003 年 中央公論美術出版 [6] プラトン著 種山恭子訳 『ティマイオス』 (プラトン全集 第

12巻) B.C.4世紀、1975年 岩波書店 [7] 広部達也著『凝視するデミウルゴス』 1985年 建築学大

[8] 矢板久明著 東京大学修士論文『空間算法試論』 1982年

[9] 加藤道夫著『ル・コルビュジエ』 2011年 丸善

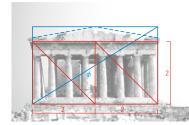


図1:パルテノン神殿 断面図

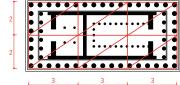


図2:パルテノン神殿 平面図

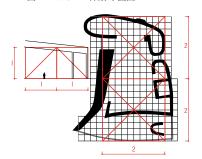


図3: ロンシャンの教会 断面図・平面図

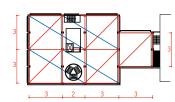


図4: イエール大学アートギャラリー 平面図

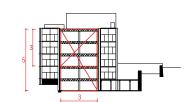


図5: イエール大学アートギャラリー 断面図

図版

*図面はすべて筆者作図、図2以外は筆者分析 [図1] 筆者撮影

[図2] Henri Stierlin 「GREECE from Mycenae to the Parthenon」 p.191を参考

[図3] ル・コルビュジエ財団FCL7455を参考 [図4・5] ETH「LOUIS.I.KAHN complete work 1935-74」

0 4 2 2012 07



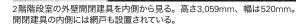
地階書斎から寝室を見る。左はSunken PATIOと洗面室、浴室。中庭からの光が満ち、地下にいることを感じさせない。

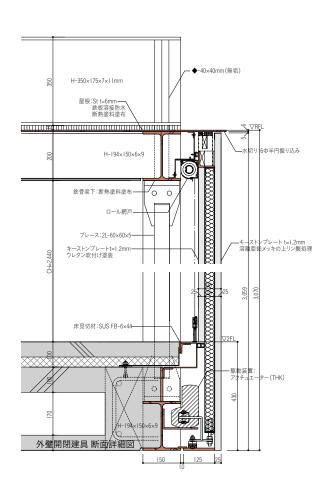


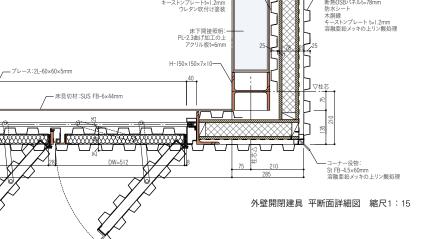


左:2階リビング・ダイニングとFloating PATIO。/中央: 1階和室。茶会ができるよう、また空間に見合った端正な 床の間をもつ。









PATIO

所在地/東京都 主要用途/専用住宅 家族構成/夫婦

設計

矢板建築設計研究所

担当/矢板久明 矢板直子 栗原佳子 大久保元彰* 石川周* 安井尚*

構造 担当/構造設計社 杉浦克治 設備・電気 島津設計 担当/島津充宏 コーディネート ザ・ハウス

施工

日南鉄構 担当/鹿島正 加賀山豪士

大工 担当/佐久間勉 土工事・型枠 永元組 担当/永元秀和 衛生設備 増根住設 担当/増根章宏 空調設備 ホサカ 担当/保坂光一 電気 川見光電社 担当/川見光 金属工事 サスプロ 担当/林浩二 駆動装置 THK 担当/川片尚志 木製サッシ モローズ 担当/両角今朝敏 硝子 安斎特殊硝子 担当/安斎亮一 建具 千葉木工製作所 担当/千葉信彦 家具 アオキ家具アトリエ 担当/青木隆 置き家具製作 コアド&マテリアルズ 担当/木本浩司

塗装 有田ペインティング 担当/有田正 外構・造園 箱根植木 担当/大平暁 保永博文 コンクリート研出し パーフェクトウォッシュ 担当/吉川和助

コンクリート補修 赤坂左官 担当/赤坂義語 ブラインド/空間、JBS 担当/沼澤幸喜 外部プラインド 日本オスモ ヴァレーマ 担当/西村好弘

構造・構法 学館コングリート浩 一部学

主体構造 鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 基礎 直接基礎

規模 —

建築面積 79.41m²

階数 地下1階 地上2階

軒高5,424mm 最高の高さ5,799mm 敷地面積 172.19m² (建蔽率46.12% 許容50%) 延床面積 134.40m²

(容積率78.05% 許容150%) 地階 81.45m² 1階 73.76m² 2階 71.65m²

設計期間 2006年 5月~2009年 6月 工事期間 2009年 7月~2011年 11月 敷地条件

地域地区 第一種低層住居専用地域 準防火地域 第一種高度地区

草的大地域 第一種同長地區 道路幅員 東15.41m 駐車台数 1台 **外部仕上げ**

屋根/St. t=6mm 鉄板溶接防水 断熱塗料塗布 外壁/2階:断熱OSBパネル t=78mm

キーストンプレート t=1.2mm溶融亜鉛メッキ リン酸処理

地階・1階:コンクリート打放し 撥水材塗布 開口部/1階・2階:特注スチールサッシ 木 製サッシ アルミ製電動横引きシャッター

(横引きシャッター) 地階:特注スチールサッシ アルミサッシ(三協立山アルミ)

外構/コンクリート研ぎ出し仕上げ

内部仕上げ —

リビング ダイニング キッチン

床/コンクリート研ぎ出し仕上げ

壁/キーストンプレートt=1.2mm UP吹付け 天井/PB t=9.5mm EP 照明/山田照明 DNライティング(床下間接照明)

家具/ソファ ダイニングチェア (B&B ITALIA) ダイニングテーブル・リビングテーブル・ラ

イティングデスク:特注 (コアド&マテリアルズ) 薪ストーブ/ Classic4 (DLD)

厨房機器/アムスタイルキッチン ドアル粧材/フィンランドバーチ積

ドア化粧材/フィンランドバーチ積層合板 ワークトップ/ SUS t=6mm バイブレーショ ン仕上げ

換気扇 (シェード) / FABER シンク水栓金物/ GROHE

浴室

床/大理石モザイクタイル (ADVAN) 壁/大理石モザイクタイル (ADVAN) 一部コンクリート打放し 一部モルタル金ごて押さえUP

天井/フレキシブルボード t=6mm 2枚張り UP バスタブ/ jaxson Aperta

シャワー水栓金物/ DORNBRACHT リラインス 空調機器/浴室暖房乾燥機

和室

床/畳敷き t=35mm

壁 / PB t=12.5mm アイカジョリパッド三河白 土撫切り仕上げ 湊紙張り(東京松屋) 天井 / PB t=9.5mm 土佐和紙張り

地板・床板等/スギ板(もくもくサンワ) 建具/障子両面貼り切り引手(東京松屋)

和室金物/西村健一商店 **書斎・寝室**

床/チークフローリング t=15mm OS拭き取り (コアド&マテリアルズ) 壁/PB t=12.5mm EP 一部バーチ積層合板 t=9mm

天井 / PB t=9.5mm EP

大井/ PB t=9.5mm EP 家具/書斎机・ワゴン:特注 (コアド&マテリアルズ)

ベッド (arflex)

設備システム -

空調 暖房方式/空冷ヒートポンプ式 薪ストーブ 冷房方式/空冷ヒートポンプ式

換気方式/第三種換気方式 床暖房/ガス温水式床暖房

給排水 給排水方式/上下水道直結

給湯 給湯方式/ガス給湯器

0 4 4 2012 07 2012 07 2 4 5